



お歯黒つて何？ 美意識の変化

鎌倉市歯科医師会 小野哲也



「フッ化ジアミン銀製剤」は、「お歯黒」をもとに開発されたものです。むし歯に塗布すると黒くなるので審美的に気になる方は注意が必要です。

美意識の変化

歯が黒くなる原因は進行したむし歯、神経が死んだ状態の歯、コーヒーや紅茶などの茶渋、タバコのヤニなどがあります。黒くなった歯は歯科医院で治療するか、クリーニングを受けるのがよるしいかと思えます。それ以上に白さを求める「ホワイトニング」もありますが自費診療になります。現代では白い歯は清潔感があり健康的で美しいとされています。歯に痛みがなくとも、ぜひ歯石除去や色素除去をしてみてもいいかでしょうか。（鎌倉小野歯科クリニック）

歯が黒いと不潔や滑稽な印象を持つ方が多いと思います。しかし約百年前の明治時代末期まで日本では普通におこなわれていた化粧のひとつでした。今回は「鉄漿」「はぐるめ」「淫歯」とも呼ばれていた「お歯黒」についてお話します。

お歯黒の歴史

わが国における「お歯黒」の歴史は古く、二、三世紀の卑弥呼の時代

に、中国の歴史書「魏志倭人伝」には日本を倭と呼び、黒歯国とも記録されています。平安時代には貴族階級の間に広がり、男女ともに十七、十八歳までに歯を黒く染め、成人であることを表していました。その後、時代とともに染めはじめる年齢が低くなり、室町時代には十三、十四歳に、戦国時代になると武將の娘は政略結婚させるため八歳で染めていたといわれています。江戸時代に入ると上流

階級の生活様式がしだいに一般庶民にも浸透しはじめ、婚約、結婚した女性の象徴となり、浮世絵で有名な歌麿などの絵にも描かれています。元禄のころには全国各地に広がりましたが、このころには男の子の「お歯黒」は姿を消したそうです。幕末から明治初期に

きっかけて、明治元年と三年に貴族を対象に「お歯黒禁止令」が出されましたが、伝統的な風習は収まりませんでした。しかし明治六年、明治天皇と皇后が率先して眉剃りとなり、「お歯黒」をお止めになつてから、庶民の間では徐々に廃れていきました。

お歯黒の目的

では本当に化粧だけのために行われていたのでしょうか。お墓から掘

り起こされた「お歯黒」の歯にはほとんどむし歯がなく、またむし歯になつてから塗られた歯はその進行が抑制されていたそうです。その成分は五倍粉（60%タンニン含有の黄色い粉）と鉄漿水（酢酸第一鉄）が用いられており、これらの作用により歯の表面が強化され、かつ緻密な膜で歯を保護していたと考えられています。現在でも治療が困難な小児や、初期のむし歯に使用されているむし歯進行抑制剤